会　議　記　録

<table>
<tr><td>名　　称</td><td colspan="2">中央区基本構想審議会快適部会（第２回）</td></tr>
<tr><td>開催年月日
場　　所</td><td colspan="2">平成28年５月23日（月）18:30～20:30
中央区役所本庁舎３階　庁議室</td></tr>
<tr><td rowspan="2">出　席　者</td><td>委員</td><td>市川宏雄、伊藤香織、礒野忠、田中広一、志村孝美、大辻正高、大北恭子、梶原寸真子、今井健、吉田不曇</td></tr>
<tr><td>幹事</td><td>平林治樹（企画部長）、望月秀彦（環境土木部長）、田村嘉一（都市整備部長）、林秀哉（防災危機管理室長）、濱田徹（企画財政課長）、御郷誠（企画部副参事（都心再生・計画担当））</td></tr>
<tr><td>配布資料</td><td colspan="2">中央区基本構想審議会快適部会（第２回）次第
中央区基本構想審議会「快適部会」委員・幹事名簿
中央区基本構想審議会快適部会（第２回）座席表
資料１　区民意識調査のクロス集計結果
資料２　他道府県の方々から見た中央区（インターネットアンケート調査）
資料３　中央区基本構想審議会快適部会　現況と課題（素案）</td></tr>
<tr><td>議事の概要</td><td colspan="2">１　開会
２　議題
（１）区民意識調査のクロス集計結果について
（２）他道府県の方々から見た中央区について
（３）中央区基本構想審議会快適部会　現況と課題について
（４）その他
３　閉会</td></tr>
</table>

１　開会

新委員の紹介。

・事務局から、日本橋地域町会連合会会長の異動に伴う平野熙幸委員の就任を報告。

配布資料の確認。

２　議題

（１）区民意識調査のクロス集計結果について

事務局から、資料１「区民意識調査のクロス集計結果」を説明。

（２）他道府県の方々から見た中央区について

みずほ総合研究所株式会社から、資料２「他道府県の方々から見た中央区（インターネットアンケート調査）」を説明。

市川部会長　　アンケート対象者は１都３県を除いた日本全国か。

みずほ総研　　都及び隣接する３県にお住まいの方を除いた全国の方々を対象に調査している。

市川部会長　　中央区を知らない人に調査しても何も分からない。「１回行ったことがあるか」等の質問は行っているか。

みずほ総研　　最初の質問事項で、東京都中央区を知っていると回答した方と、知らないと回答したが次の質問で銀座や日本橋など中央区の地名・観光スポット等を知っていると回答した方を対象としている。

（３）中央区基本構想審議会快適部会　現況と課題について

事務局から、資料３「中央区基本構想審議会快適部会　現況と課題（素案）」を説明。

市川部会長　　前回の各委員からの意見を基に、大項目ごとの「現況と課題」について、事務局案が示された。本日は、これをたたき台として「現況と課題」や「施策の方向性」に盛り込むべき内容について、皆様から意見をいただきたい。事務局には、本日の意見を踏まえ、次回までに「現況と課題」を修正していただくとともに、小項目ごとの施策の方向性を作成していただく。

まず１つ目の大項目「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」について意見をお願いしたい。

礒野委員　　新たな基本構想の策定に当たり中央区の各種団体から話を伺い、また、会派内でも会議を重ねてきた。

そこで、まず「災害時における医療体制の再検討と充実」を挙げさせていただく。その中で、来街者の増加を踏まえて「医療インフラの拡充」、「防災拠点と一時避難所の周知」、「サインや看板の設置など、帰宅困難者整理・広報」、「隣接区との関係構築」、「緊急時の病院の確保」などの課題があると考えている。

また、現在、水門は東京都が遠距離操作で管理しているが、津波、高潮、あるいはテロなどを想定して「防災対策の再点検」が必要ということを挙げさせていただく。

それから、子どもが遅い時間まで塾等に通っているため、安全面の観点から LED の街路灯を整備し、明るい環境を整えていくべきという話が出ている。

また、災害時に区役所は、国、東京都などから区内の情報が集結し、災害対策の拠点として重要な役割を果たさなくてはならないが、23区中で２番目に古い庁舎となっているため、本庁舎の建て替えも含めて取り組むべきという話が出ている。

安心して住み続けられるまちという点では、新しい住民とのコミュニティが構築

しづらい状況があるため、どのように構築していくべきか検討した方が良いという意見が挙がっている。

市川部会長　部会報告書の構成としては「現況と課題」と基本構想の中身となる「施策の方向性」に分かれている。今の話は事務局で「現況と課題」か「施策の方向性」に割り振ると思うが、１つ目の医療インフラと来街者、帰宅困難者をどうするかは、地域として非区民にどう対応するかというテーマになると思う。基本構想全体でも、これをどうするか考えていくべきであると考えている。

水門の扱いについては、現在は東京都が水門を閉めているが、区として自ら閉めたいということか。

礒野委員　現況としては水門を遠隔操作しているため、万が一動かなくなった時に、手で開閉しなければいけない状況にあると思う。距離が離れているため、例えば大きい津波が来た時にすぐに閉めるという対応ができないとまち自体に被害が及ぶため、今後の対策を考えた方が良いということである。

市川部会長　地域コミュニティについては、新しい住民と旧来の住民とのコミュニティをどうするのか。これは今回の基本構想における大きなテーマであると思う。吉田委員、これらについて何かありますか。

吉田委員　現状、荒川水系の洪水の後、溢水する懸念はあるが、津波については深刻な危険はないと思っている。予測水位を見てみると中央区の水門が全て閉じなかった場合でも、ある程度の安全性はあると考えている。ただ、区として水門の操作のあり方などについて、区民を含めて承知しているわけではないので点検させていただく。

市川部会長　この話については基本構想の話ではなく、その前段階の切実なテーマだと思う。

大辻委員　品川区も江東治水水門所の遠隔操作をしている。品川区は水門が閉まらなかった場合は水没するかもしれないと想定している。中央区では「水没しない」という話になるが、3.8mの月島水門等を超える高波が来た場合は水没するため、災害対策として考えた方が良いと思う。また、相模トラフのような地震が発生し、江東治水水門所が被災した際、高波がきて月島や日本橋が水没する可能性もある。本当に中央区での水害は荒川水系の洪水だけで済むか以前から懸念している。中央区と品川区で浸水に対する考え方に違いがあるのはどういうことか。

市川部会長　これは基本構想というよりはもう少し手前の防災対策になると思う。

吉田委員　品川区が出しているデータと中央区のデータが同じ基盤かどうか確認したい。

市川部会長　東京都は大丈夫だと言っているため、何が大丈夫か確認すれば良い。

伊藤委員　自然災害として地震については書かれているが、水害については触れられていない。気候変動によって水害のリスクが高まっているため、20年後を見据えた時に代表的なリスクの１つかと思う。

今井委員　火災被害についての取組はどうか。防災という意味では地震、水害の他に火災がある。

市川部会長　首都直下型地震が起きた場合、倒れやすい場所、燃えやすい場所のデータは東京都が出しているため、それを前提に考えることになる。東京都は、水害については堤防があるから想定される高波であれば大丈夫だと言っている。個別ケースで違いはあると思うが、これらへの対応は今までも行っており、これからも行う必要がある。常に新しい方法を見つけることが大事である。これらについては「安全なまち」として、どのように対応を記載していくかということになる。

志村委員　現況と課題では、帰宅困難者について書かれている部分について、熊本地震を踏まえた補強、見直し、検証が必要かと思う。熊本地震の特徴として大きく３つ言われている。

１つ目はマグニチュード6.5で震度７を記録したこと。震源が浅く、地表に近か

ったことと地震の時に断層が地表に出るすれすれで突き抜けないで止まったことが複合的に絡んで強い地震を招いた可能性があると言われている。

２つ目は、震源に近い熊本県宇城市で、長周期地震動で一番強い階級４を記録したことである。中央区にも多い超高層ビルなどに影響を与える５から10秒程度の揺れは、マグニチュード６クラスになると比較的強く出ると言われている。マグニチュード６でも直下地震では、超高層ビルに対する強い長周期地震動が長時間起こるということが今回の熊本地震で分かった。

３つ目は、強い地震が今でも続いていることである。地下に中規模な断層が多数あり、余震が続くうちに、断層帯の活動していない部分に影響して、強い余震が続いている。中央区を含む東京都で直下型や南海トラフなどの大地震が30年以内で発生する確率は７割と言われている。基本構想は20年後を見通して議論しているが、今後20年間で、中央区が大地震に見舞われる確率は高くなると思う。

東京の地下には多くの断層があると言われている。中央区には地下にある推定断層として、４つの断層があるとのことである。その上で生活している中央区民、あるいは働いている方たちの命、暮らしを守るという意味では今回の「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」には、熊本地震を踏まえて、防災、震災、減災についての検証、見直しをして補強する必要があると思う。

市川部会長　１つ目の大項目では災害と犯罪という２つの柱がある。今の話は、災害への対応は多角的な対応が必要ということである。また、ハード・ソフトの両方があり、当然基本構想の中でそれを踏まえていく必要があると思う。その中で、中央区において他の自治体と比較して特徴的なことがあるかどうかだと思う。中央区や品川区は水に面しているという点が他区と違うと思う。今の話についてはオーソドックスな方法を取りながら考えていくことが答えになるかと思う。

私見だが、施策の方向性で、「① 地域ぐるみの防災力・防犯力の向上」に「地域ぐるみ」と書いてあるが、地域ぐるみとは何かを考える必要がある。災害時においては、自分たちで守る「自助」、行政で守る「公助」、それから最も重要なのはコミュニティ、「共助」と言われている。全てそこにつながるため、その記述を入れる中で、地域ぐるみで人々がどうするか、コミュニティの構成員がそれをどう対応するか考える必要がある。

次ページの「(ｳ) 犯罪に強いまちづくりの推進」には「防犯設備設置費の助成」のみが書かれている。現況と課題では、全国的に、凶悪事件や子ども・高齢者を狙った犯罪の報道が目立つ中、区内では減っているとのことだが、現状減っていても今後増えるかもしれないと考える必要がある。ハードを含んだ仕組みも大切であるが、犯罪は人々が見張っていることによって抑止できるため、コミュニティの再生、創生の中で、犯罪を抑止していくことを考えれば良いのではないかと思う。区民意識調査結果にあるように、新しい住民はあまりコミュニティに興味がないが、災害が起きると皆が１つになる。そこで日頃からコミュニティを築いておくことで、これから来街者が増える中央区では、犯罪防止につながる。補助金ではなく、人々が自分たちのまちを守るという言葉を入れると分かり易いと思う。

活断層については、関東地方では関東ローム層が厚く全く見えない。日本国中どこにでも活断層があると思えば、どこでも災害は起きるため、それに対して特別な方法があるわけではなく、起きたら皆がどうするかが大事であり、それを検討していくことになると思う。その上で、特に中央区は何が優れているか、中央区には何が必要かを考えていくことが必要である。

大北委員　以前申し上げたが、外国人がとても増えているが、彼らは地震に慣れていない。地震に慣れていない外国人への対応について考える必要があると思う。また、コミ

ュニティといっても、私のまちでは住民は少なく、ほとんどが企業であるため、今後は企業を巻き込んだ取組を検討していく必要があると思う。

市川部会長　都心区では企業を巻き込んだ取組が始まっている。企業側では自分の会社を守ることは行っているが、まちに対して何をすべきなのかということは決まっていないので、今後はまちが企業に求めることを伝えていく必要がある。これからの基本構想では当然盛り込むべきテーマであり、住民、来街者、企業の組み合わせや役割分担をどうするのかを考え、巻き込んでいく必要がある。しかし、企業に災害時に何らかの手伝いを頼んだ場合、法律的に誰が責任を持つかは法整備ができていない。それをどうするかという最大の課題もある。

梶原委員　地域ぐるみの防災について、個人的に関心を持っている。長く継続してきた町会にはこの上ない敬意を表するが、これからは町会の枠組みだけではなく、防災や減災に特化したコミュニティが必要かもしれない。地域ぐるみの防災を考えた時に、町会はもちろん企業も含めて地域ぐるみの集まりを構築していく方法を考えることも１つではないか。

市川部会長　一般論として、多くの自治体では町内会で高齢化が進み、構成員が減少している。一方で、災害が起きるとタワーマンション内のコミュニティが役立っている。中央区はタワーマンションごとにコミュニティがあれば良いと思う。そのネットワークをどういう形で災害や犯罪の対策に役立てるかということもテーマになる。

梶原委員　区民意識調査でも町会への関心は出ているが、防災や減災については、待ったなしの状況のため、そういったところを探っていくことも１つかと思う。

志村委員　熊本地震では直下型地震によって、タワーマンションの被害が大きくなった。エレベーターの問題や、長く続く強い余震による影響を考えると、タワーマンションへの防災対策は、熊本地震を踏まえて検証しなくてはいけないと思う。その際に地域の町会やタワーマンションが協力しなければいけない場面も考えられる。できるだけ早く研究する必要があると感じている。

田中委員　水害については重要であると考えている。3.11の時に地震の専門家から、都心にとってこれから問題なのは地震以上に水害だという話があった。特に中央区に特徴のある災害だと思っており、どこかで触れるべきと考える。

また、防災という視点では当然ハードも大事であるが、一人ひとりの防災意識の向上、継続がポイントとなると思う。よくメディアに出る釜石の実績、奇跡の中で言われることは「共感」と「納得」である。津波が来ると昔から言われていてもなかなか逃げない人たちが、共感と納得で逃げるようになったとのことである。

「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」で、20年後に区内に住む一人ひとりが、高層住宅、戸建て住宅を問わず、「しっかり備蓄ができている」あるいは「防災拠点がどこにあるか分かっている」という防災意識を持つことが必要である。その中で町会単位、マンション単位、ボランティア単位で協力し合える色々な核があれば災害に対して安全なまちになると思う。そのエッセンスをどこかに入れていただきたい。

市川部会長　防災に加えて災害教育がある。これは教育をしても、真剣に聞くかという課題があり、通常は災害が起きると３年間有効で、３年経つと忘れてしまうため、継続的に災害教育は必要である。

「(ｴ) 消費者教育の推進」について意見が出てきていないが、いかがか。振り込み詐欺の話もあるが、中央区ではどのくらいか。

梶原委員　昨年度は９件と伺った。

市川部会長　教育と同時に、未然に防ぐ仕組みは何かあるのか。

事務局　教育だけではなく、様々な取組も施策として行っている。例えばオレオレ詐欺な

どに関しては区民の単身世帯の方等へ電話録音装置を配付するなど、東京都では普及啓発を中心に取り組んでいる。

市川部会長　「教育」だとありふれた言葉になるため、違う言葉があると良いのではないか。例えば、周知させる仕組みの方が良い気がする。

施策の方向性の１つに「(ｲ) 区民住宅の管理」とあるが、中央区は区民住宅が多いのか。

事務局　1,286戸ある。

市川部会長　特別養護老人ホームはどのくらいあるか。

事務局　特別養護老人ホームが４つと地域密着型が２つある。

市川部会長　中央区は民間の住宅供給が多いため、公的セクターのものはあまりないと思うが、区では区民住宅は今後の大きなテーマと考えているのか。

吉田委員　「消費者教育の推進」、「区民住宅の管理」のどちらにおいても、核家族化の進行を懸念している。高齢者についても高齢者独居、高齢者世帯が増えており、地域社会が弱くなっている部分がある。それらを今後どのように解消し、地域力を上げていくかは全体を通してのテーマであると思う。

市川部会長　高齢者などの増加をどうするかという方が分かりやすいと思う。

吉田委員　区営住宅にテーマがあるわけではなく、高齢者向け優良賃貸住宅等を含めた話である。

市川部会長　今後、中央区にとって単身高齢者が大きなテーマとなるということか。

吉田委員　その通りである。

災害の面で、中央区で問題なのは帰宅困難者である。東日本大震災の時、区内で働いている75万人に加え、地下鉄が止まったことで多くの乗客や来街者が区内に滞留した。通常の区民に対する災害対策のサービスに困難をきたすほどの膨大な通過者、帰宅困難者がいる一方で、区民の中には高齢者だけで孤独に住んでいる方もいる。これらを踏まえて災害対策等を考えなくてはいけない。災害対策については、区としての基本的な姿勢を示していかないといけないと思う。

市川部会長　東日本大震災の時、都心区は持っていた備蓄を帰宅困難者などにも提供した。それはそれで良かったと思うが、次はもっと大きな地震が起きると言われている。こうした中で災害に限らず、中央区として区民と非区民をどう位置付けるかは大きなテーマである。

志村委員　中央区は民間住宅が多く、公的な住宅は少ないとの意見があったが、「安心して住み続けられる住宅・住環境づくり」については、区民住宅を初めとした施策の拡充が必要だと思う。

市川部会長　２つ目の大項目、「水とみどりあふれる豊かな環境を未来へ繋ぐまち」についてご意見をお願いしたい。

礒野委員　環境については、現状の取組をさらに拡充すれば良いと考えている。

中央区で一番問題なのは緑化率が少ないことだと思う。施策の方向性の中に「(ｱ) 公園・児童遊園等の整備・充実」とあるが、中央区は土地が少ないため、老若男女が集える場所として公園・児童遊園を整備している。しかしそれによって子どもたちが自由に遊ぶことができないのが現状である。今後はボール遊びができる公園や自転車に乗れる公園など目的別に公園を作り、子ども達が外で遊べる場所を整備していかなければいけないと思う。

もう１点、東京都は築地市場の跡地利用については、水辺の利用を打ち出している。中央区は水辺に接している部分が多いため、例えばハブ化した羽田から船で築地、晴海に人を運ぶことができると思う。将来のことを考えた時、築地、日本橋、

月島地域の３地区を船で移動できることはとても良いことだと考えている。船を使った交通網の整備、水辺ラインをどのように活かしていくか検討すべきだと思う。

梶原委員　現状と課題の中で「世界規模での環境問題が深刻化しています。」と謳っている。また、区民意識調査でも、気に入っていない点として「大気汚染や騒音など環境がよくない」が挙がっている。前回、喘息の子どもが多いという話もあったので、大気汚染に対しての一文を入れたほうが良いと思う。

大辻委員　公害対策基本法制定後、中央区は国の公害指定地域となった。大気汚染の中心は浮遊粒子、硫化化合物、窒素酸化物の３つである。

東京都の大気汚染地図情報（速報値）というホームページを見れば分かるが、硫化化合物は減っているものの、窒素酸化物の量は減っておらず、日本橋室町付近では少なくとも基準値の100倍はある。現在は公害指定地域から外れたが、今なお喘息被害は続いている。

景観が悪いため、住民が日本橋の上の高速道路を撤廃してほしいと言っているが、私は公害という意味で首都高速道路を地中に埋めていただきたい。

市川部会長　大気汚染も含め、様々な公害をどう扱うのかというテーマである。首都高は20年、30年経つと恐らく日本橋の上からはなくなると思う。これが基本構想のテーマかは疑問があるが、美しい景色もほしい、美しい空気も水もほしいというのは当たり前のことであり、それに向けて頑張るということを入れれば良いと思う。

吉田委員　日本橋の上の高速道路については、今年中に地下化の目処をつけたいと取り組んでいる。中央区で高速道路が特に醜い形で展開がされているのは箱崎町の辺りである。

大辻委員　東京都の大気汚染のベスト５は１位が千代田区、２位が中央区、３位が江東区、４位が文京区となっている。首都高の交通量は圧倒的に多く、東京都の大気汚染地図情報（速報値）を見ると、高速道路付近の数値が高くなっているはずである。よって、窒素酸化物の原因は首都高速道路であると思われる。今は地下を掘って道路を作る技術はあるので、東京都あるいは国に、ぜひこの大気汚染を減らしていただきたい。

吉田委員　部分的に日本橋では今動いているが、都心環状線の撤去や箱崎ランプの改良も含め、長期的なテーマであると思う。

市川部会長　現実的にそうなるだろうとは思うが、時間が20年しかない。

吉田委員　だが、10年くらいでなんとかしないと困る。

市川部会長　以前は都心環状線の交通量は多かったが、中央環状ができてから都心環状の渋滞は減っている。現在の大気汚染の数値はどう変わっているか。

大辻委員　今も大気汚染地図情報を見ると分かるが、中央区では相変わらず窒素化合物の数値がかなり高いので、どこかに「空気を綺麗にする」と記載していただきたい。

田中委員　公園と緑地については、もう少し力強い文章で良いと思う。高架の高速道路については時間がかかる話になるが、少し低層を走っている高速道路は再開発をきっかけに安全技術をうまく使って蓋をして、大気汚染対策を取りつつ、公園・緑地を広げることができたら良いと考えている。

もう１点、地域の方からのお話で気になっていることがある。外国の方だと思われるが、ルールに沿わない形でごみ出しが行われている。また、道にも誰が出したか分からない大きなごみが捨てられているということがある。これから外国の方が増える中で、20年後を見据え視野を広げると、ごみの出し方について外国語で周知するなどの対応が必要であると思う。

市川部会長　そのテーマは既に緊急のテーマであり、今すぐにやらなければならない。中央区で守るべきルールは様々なところで周知すべきである。場合によっては罰則をつけ

るくらいまでやらなければ、すぐに汚れてしまう。住む以上はルールを守るという意識啓発をもっと幅広く取り組む必要がある。

伊藤委員　「水とみどり」と言ったときに、地区の環境保全と生活者のアメニティを高めるという両方の方向があると思う。資料には両方入っているが、アメニティを高めるという意味では、水があっても使えなければ意味がない。例えば河川法の改正で占用許可準則の緩和もあるので、水辺の活用について言及しても良いと思う。本当は水質改善まで入ってくるが、区だけで解決できる話ではないため難しいとは思う。

緑に関しては、特に中央区では屋上緑化の話があっても良い。施策の方向性では「(ｴ) 緑化の促進」の「公共施設や民間施設の緑化推進」と関係があるかもしれないが、最近は、屋上緑化した場所を子どもが遊び場として自由に使えるところが増えている。昨年これについて調べた学生がおり、車が来ないので子ども連れが安心して遊ぶことができるため、結構使われているということである。公園を整備するのはもちろんだが、限界もあると思うので、そのような場所があっても良いと思う。

市川部会長　「現況と課題」の文章は良いが、ここに書いてあっても「施策の方向性」に書かれていないものがある。

生物多様性は今ブームであるが、有名なロンドンプランでは、オリンピックパークに川を復活させて、かつての植物を全部戻すだけでなく、蝶も飛ばすところまで取り組み、生物多様性を戻している。今回は、施策の方向性に「(ｴ)緑化の促進」とあるが、緑化するだけではなく、中央区という都心にかつての自然が戻り、生物が戻るまでやらないと、生物多様性にはならない。現実的な施策だけでなく、20年後の将来像として大胆に示すという視点でもう一度見てもらうと良いと思う。

梶原委員　水辺を観光に利用することで、両方を活性化させることができると思う。

市川部会長　３つ目の大項目、「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」についてご意見をいただきたい。

礒野委員　まず、交通環境の改善ということで、バリアフリーの徹底をしてほしいと意見をいただいている。中央区のバリアフリー化は進んできてはいるが、公共交通ではまだバリアフリー化されていないところもある。オリンピック・パラリンピックもあるため、バリアフリー社会の推進を盛り込んだ方が良いと思う。

また、公共交通の整備促進ということで、中央区は都バスや地下鉄など、他の自治体と比べて充実はしているが、臨海部ではまだ交通不便地域がある。また、タワーマンションの増加による人口増加に加え、企業もあることから通勤者も増えており、例えば勝どき駅のホームはすごい混雑状況である。地下鉄新線の早期実現を基本構想の中にしっかりと盛り込んでいただきたい。BRT の導入も含め、利便性を高めていくことが重要である。

「(ｱ) 地域の個性をいかした良好なまちづくり」についての話になるが、中央区は総合的な医療機関がとても少ない。聖路加国際病院、国立がん研究センターがあるため二次医療圏の関係で病床数があまり確保できない。これは区だけでなく東京都に働きかけをする必要がある。病院数はあまり変わっていないと言われているが、整形美容外科などが増え、一般診療を行うクリニック（診療所）が減ってきている。建て直しや再開発がある際には継続が難しい状況もあるため、今後対策を考えていくべきである。

また、中央区には食品や生活用品が揃う商店街が少なくなってきている。新しいタワーマンションが建てられている勝どき、晴海、月島などでは、住民が日用品を買うのに困っており、江東区の大型スーパーなどに行っているという話を聞いている。今後、区内の再開発事業においては、ある程度の規模のスーパーマーケットを

整備する必要があると思う。

それから、「(ｲ) 世界に発信する魅力的なまちづくり」について、築地市場移転後の跡地は中央区に残された唯一の大きな土地となるため、東京都に対して中央区全体に寄与するような活用方法を区として打ち出していく必要があると思う。

最後に、現在の人口推移が続き、区の人口が今後20万人を超えることを見据えた時に、区役所の事務事業は膨大になることが考えられる。区役所機能を分散すると区民へのサービスや職員の連携がとりづらくなるため、本庁舎の建替えも見据えて取り組んでいただきたい。

市川部会長　今の話は、ショッピングや医療などの生活利便性の話である。「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」ではなく、「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」に加えた方が良いと思う。住み続けられるまちには高い利便性が必要である。具体的には「② 安心して住み続ける住宅・住環境づくり」に「生活利便性を失わない」ということを入れれば良いのではないか。「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」はエリアが持っている特性やポテンシャルを活かし、それを文化としてさらにバージョンアップして世界に発信するという項目である。

医療機関については、国家戦略特区においてベッド数の規制を外そうとして、猛烈な抵抗にもあっている。多い方が良いが、違う動きも起きている。

大辻委員　再開発によって家賃が高くなり、一般の保険診療を行う医師が入れなくなる。最近は子供が増えているが、小児科医は日本橋医師会で20年間で１軒増えただけであり、産科医は１軒減り、耳鼻科医は増えていない。住民増に医療機関が対応できない状況である。そのような中、児童がますます増えており、園医、学校医が必要であるが、医師は増えていないため学校医が疲弊している。

市川部会長　医師会としては、この地区で医師をやりたいという人が来たら喜ばしいのか。

大辻委員　それは喜ばしいことである。新しい医師は歓迎であるが、若い医師は家賃が高く、子どもも少ないと考えて新たに開業しないため、医療過疎が起きている。

市川部会長　そうであれば生活利便性の中に積極的に入れた方が良いかもしれない。

大辻委員　再開発の際には医療機関を残すことを行政でやっていただければありがたい。

吉田委員　今後再開発事業がそれなりにあるので、医療施設を入れるフロアを予め作るような仕掛けが考えられる。

大辻委員　医療機関には、基準を満たすためにいくつかハードルがあり、再開発のために退去すると戻れなくなるという事実がある。東京駅の周りに医師はおらず、災害時に対応できる医師はいないことになる。東京都あるいは中央区が、再開発の際に医療機関を入れるよう指示していただけるとありがたい。

吉田委員　区としては、再開発で建てられたオフィスの勤務者に対する医療ケアも必要であることから医療モールのようなものも検討したいと考えている。

市川部会長　４ページに『世界をリードする牽引役となるよう、本区固有の文化を受け継ぎ、地域の個性に先進技術を取り入れながら「国際的な業務拠点や観光拠点」「業務拠点や観光拠点を支援する調和のとれた複合市街地」「水辺などの自然環境を活かした良質な都心生活地」』と、「生活」という言葉が入っているため、この項目に入れることは否定しない。利便性については基本的には１つ目の大項目で良いと思うが、今の話をこの項目に入れるとすれば、都心区でトップということを書くことになると思う。

この項目では中央区民と共生することを前提に良いまちをつくりたいということを書いていくべきだと思う。書き方については提案を踏まえて事務局で検討していただければと思う。

志村委員　根本的な話となるが、東京が災害に耐えうる都市構造を持っているかが問われると思う。東京は歴史的にも自然災害を呼び込みやすい。中央区の多くは江戸時代以降に埋め立てで作られてきたまちであり、大災害に弱い都市構造になっている。「災害に強く犯罪のない安心して住み続けられるまち」における防災の観点からは、中央区はリスクが高い場所である。水害では、中央防災会議において利根川、江戸川、荒川の氾濫、堤防決壊によって、大変な被害を受けるという話があった。地下鉄や東京駅は水没する可能性がある。また、火山も自然災害の１つとして考えられる。昨年は箱根の火山性微振動もあり、箱根山につながる富士山火山帯が活動期に入ったといわれており、富士山が噴火した時の膨大な量の火山灰、軽石の除去、また集積場所の確保など、大きな問題になると専門家は指摘している。

第２回目の中央区基本構想審議会で資料として配布された「中央区の将来像に向けた検討すべき視点」において、「世界一の都市」として世界一ビジネスのしやすい都市を実現しようとしているが、開発の歴史や根本的な危機の構造を検証すると、ビジネスをする都市として大きなリスクがあるということを直視しなくてはならない。経済と政治の中心を置いている東京では、両方の機能が同時に停止するリスクがある。

また、同資料で「「世界一の都市」東京の牽引役として、本区の総合力をこれまで以上に結集させ」とあるが、中央区のこれからのまちづくりにおいては、都市機能というよりも区民を主人公として安心・快適に生活できる都市環境の整備に力を注ぐということが大事ではないかと思う。

３つ目の大項目については、都市機能というよりは都市の良好な環境を総合的なまちづくりの中で実現していくことが大事であり、「安心、快適、魅力ある都市環境と地域の文化を世界に発信するまち」に変えることを提案する。

市川部会長　今の話は地域防災計画の範囲だと思う。基本構想は将来をどうつくるかを考えるものである。災害や富士山の噴火についても、起こることを前提にどうするかを考えていかないといけない。

１つ目の大項目では防災をテーマとしており、３つ目の大項目「魅力ある都市機能と地域の文化を世界に発信するまち」では中央区の都市機能や地域固有の文化をどうのように伸ばすかということがテーマである。災害の話だけでまちをつくると防災都市をつくるというビッグテーマになる。防災都市も必要であるが、この大項目では都市の魅力は何かを考え、包括的に未来を描いていくということがテーマである。

志村委員　地震国でリスクがあるため、世界の商業などをリードする牽引役は厳しいのではないか。

市川部会長　意見としては分かる。しかし、私は地震国であっても東京は頑張れるという立場にいる。

伊藤委員　最近は交通の分野で「遅い交通」が取り上げられている。これまでは速く、多くの交通を追求し、中央区では整備がだいぶ進んでいる。今後も足りない部分を拡充することは良いと思う。一方で、ゆっくりまちを楽しむことも重要となっており、観光とも関わってくるが、歩行者や自転車、舟運などの遅い交通に言及してもらえると良い。今、コミュニティサイクルが進められているが、今後自転車のネットワークをどう考えていくか。また、舟運も盛んになれば良いと思う。これらの交通を結節し、総合的なネットワークをつくっていくことが重要なテーマであると思う。

もう１点は魅力の発信ということで、世界的な都市には水上からの景観が印象的な都市が多い。シドニーやニューヨーク、それからイスタンブールは海からの景観が印象的で、ロンドン、パリは川をクルーズしてまちを見ることができる。日本に

はそのような都市はほとんどないが、挙げるとすると横浜である。もちろんロンドンやパリとは川の流れている位置が違うため一概には言えないが、隅田川で水上バスから周りを見て楽しいかというと疑問である。世界に発信するまちという意味では、水上からの景観が重要であると思うので、そういう部分も入れていただければと思う。

市川部会長　水辺から見た景観ということでは、現在中央区ではほとんどの建築物が川に背を向けている。今後の中央区の再生においては、特に運河、水辺を活かすということなので、景観を変えると同時に川辺を整備していくといったことが必要である。

吉田委員　関東大震災や戦災の後は非常に貧しく、川をごみ捨て場に使ったこともある。川が使われていた時代は川が綺麗で、風景も良かった。水上交通、舟運という話があったが、川を活用していく中で景色を直していくことが必要だと思う。

また、先ほど議論があったが、世界一の都市を目指す上で、経済的な豊かさを区民生活の心の豊かさにどうつなげるかが基本構想のテーマであり、そのためにどのように取り組むかをこれから地元の方々とともにやっていくかという目標設定が基本構想であると思う。

市川部会長　魅力的なまちをつくれば住む人の誇りになる。例えば日本橋の開発では、最終的には首都高を取って昔の木造の橋を架け、周辺や川を昔のような風景に戻すという絵がある。中央区は歴史があるため、こういったことを他にもやっていただきたい。

田中委員　地域の文化を世界に発信するという話で、これまで「教育の中央区」を標榜してきた経緯があるが、地域の声を聞くと、小学校や中学校は立派だが、大学が少ないという話が出ている。中央区は一大文教地区であった背景もあるため、20年後という目標の中で、大学が区内にもう少しあれば良いと思う。今後は高齢化という課題もあることから、若い世代が交流して、新しい何かを発信するまちがあることは未来の中央区を見ていく上では大事な視点であると思う。地域文化の中に教育という視点を入れることを検討いただければと思う。

大辻委員　来週の火曜日は世界禁煙デーで、さらに今年は日本禁煙学会が日本橋で開かれる。４年後に東京オリンピックがあるが、オリンピック会場は過去全面禁煙だったため、中央区も全面禁煙にしていただきたい。また、子どもが増えていることから、煙から子どもを守るという意味でも、そして、世界都市を目指す上でも、世界の基準に合わせていただきたい。

礒野委員　タバコは嗜好品で、それで生計を立てている方もいる。全面禁煙というわけにはなかなかいかないので、私は煙の漏れないしっかりとした分煙の環境をどうやって作っていくかを考えている。

大辻委員　タバコをフィルターから吸うと酸性で、副流煙はアルカリ性である。つまり周りの方が刺激は強い。世界の流れでは禁煙は当たり前となっているため、世界都市を目指すのであれば全面禁煙にしていただきたい。

礒野委員　嗜好品として国が認めているものを一切禁止することはできないため、バランスよく考えていく必要があると思っている。

市川部会長　本日は３つのテーマで、色々な意見を伺った。事務局で今日の意見を踏まえて、中身をもう一度作ってもらいたい。

（4）その他

質疑等なし。

3　閉会

市川部会長の閉会宣言により終了。